

学習国語辞典における接尾辞「的」の語釈に 関する考察と提案

——小中学校用教科書の調査を踏まえて——

大塚 貴史

キーワード：国語辞典、教科書、「的」、語釈

要 旨

小学生向けの学習国語辞典における「的」の語釈は、概ね「…のような」「…の状態にある」に相当する 2 つの意味を中心に構成されている。しかし、それは小学校用教科書に見られる「的」の傾向とは異なる。つまり現行の学習国語辞典は、少なくとも小学生が学習過程で目にすることが容易に想定される「的」の使用傾向を十分に反映したものにはなっていない。また、学習用という点に鑑み、小中学校用教科書に見られる「的」の意味に基づいて小学生向けの学習国語辞典における「的」の語釈を検討すると、それは「…に関わる」「…の状態にある」「…としての」に相当する 3 つの意味を中心に構成するのが妥当と言える。

1. はじめに

現行の国語辞典は、小中学生が学習用に使用することを前提に編纂されているものと、高校生から一般社会人が使用することを前提に編纂されているものに大別される（倉島 2000: 64）。本稿は、その前者の国語辞典、特に小学生向けの学習国語辞典（以下、[小学]）における接尾辞「的」の語釈（意味の説明）に関し、現状の問題点に関する考察と解消法の提案を行うものである。

従来、「的」については数多くの論考が提出されている。特にその意味や前接語の特徴を中心的に扱った研究が多く（藤居 1957, 1961; 遠藤 1984; 水野 1987; 山下 1999;

呉人・趙 2008 等)、それらの研究によって、「的」が非常に多様な意味を有しており、「的」自体の意味を捉えるのは容易ではないことが示唆されている。しかし、語の意味を説明することを本義とする国語辞典においては、その点を克服して適切な語釈を設けることが求められる。この場合、基本的には様々な「的」の意味を網羅的に取り上げるにより、その要求に応えることが可能となる。一般社会人向けの国語辞典(以下、[一般])であれば、そのような対処法を採っても大きな問題は生じないものと思われる。事実、[一般]の1つに当たる『三省堂国語辞典 第七版』では、「的」について8つのブランチ(意味区分)を設けてその意味を説明している(詳細は後述)。一方、[小学]の場合、前提とする使用者が小学生であるため、分かりやすさや簡潔さに特に配慮することが必要となる。故に、[小学]の語釈としては、「的」の意味が網羅してあることよりも、一定の基準に基づいて適切に選別された意味が記載されることの方がより重要であると言える。

以上の点を踏まえ、本稿では次のような議論を行う。第一に、[小学]に「的」の語釈として記載されている意味を整理する。その際、[一般]の語釈との比較を行うことで、反対に[小学]が記載していない意味についても確認しておく。また、小学校用教科書から「的」を含む派生語(以下、「A 的」)を収集し、小学生が目にする「的」の意味の傾向について調査する。これらの調査結果から、現行の[小学]における「的」の語釈は、少なくとも小学生が学習過程で目にするのが容易に想定される「的」の使用傾向を十分に反映したものになっているとは言えないことを明らかにする。第二に、前述の小学校用教科書の調査結果、さらに同様の観点から中学校用教科書に見られる「的」を調査した結果に基づき、[小学]における「的」の語釈として記載すべき意味について検討する。その上で、語釈としては「…に関わる」「…の状態にある」「…としての」に相当する 3 つの意味を記載するのが妥当であることを主張する。

2. 研究の背景と意義

2.1 国語辞典における「的」の語釈に注目した研究

2.1.1 通時的な研究

国語辞典における「的」の語釈に注目した研究としては、遠藤(1984)や王(2016)などが挙げられる。両者はいずれも、明治以降の国語辞典における「的」の語釈の変遷を観察している。このうち遠藤(1984)は 6 つの国語辞典における「的」の語釈を

比較し（表 1）、「時代が下ってくるにつれて、いくつかの意味に分けて記述されるようになっていく」（遠藤 1984: 130）と指摘している。

表 1 国語辞典における「的」の語釈の変遷（遠藤 1984 を基に作成）

国語辞典	「的」の語釈
『言海』 (1889-91 年)	漢語ノ末ニツク語。之ノ意ヲナス。
『大日本国語辞典』 (1915-19 年)	㊦名詞に添へて、の の意を表す語。㊧名詞に添へて其の性質を帯びたる意を表はす語。即ち、むき・ふうの意。「商賣的」
『言泉』 (1921-29 年)	㊨漢語に添へて「なる」「の」の義に用ふる語。民主的政治。美的生活。㊩云々の如き性質を帯びたる意。「打算的な人」「試験的に行ふ」
『大言海』 (1932-35 年)	㊪…ニ就キテノ。上。「教育的整備」㊫…ノ振ナル。風。「独逸的教育」 ㊬…ノ如キ。様。然。「学者的態度」「都会的風俗」
『日本国語大辞典』 (1972-76 年)	㊭㊮そのような性質を有する、それらしいの意を表わす。貴族的、悲劇的。㊯それに関する、それについての、その方面にかかわるなどの意を表わす。美的。私的。科学的。政治的。現実的。
『学研国語大辞典』 (1978 年)	㊰「…に関する」「…にかかわる」「…についての」などの意を表す。㊱「…のような性質を有する」「…らしい」「…に似る」などの意を表す。「動物的な態度」「悲劇的な最後」「貴族的な顔」㊲「…の状態にある」の意を表す。「普遍的な性質」「合法的な活動」

また、王（2016）はより新しい国語辞典も観察対象に含めており、『広辞苑 第六版』（2008 年）に「私（わたし）的」、「気持ち的」、「僕的」のような場合の「的」に対応した「…として、…においての意を表す。」（『広辞苑 第六版』「的」②）という語釈が追加されたことを指摘している。

2.1.2 共時的な研究

一方、現行の国語辞典における「的」の語釈を共時的に比較検討した研究は管見の限り存在しない¹。特に学習国語辞典については、筆者らの研究グループによる報告（大塚ほか 2016；矢澤ほか 2016；橋本ほか 2017；大塚 2017, 2018）を除き、従来研究対象とされること自体がなかった。このうち、大塚（2017, 2018）では大塚ほか（2016）の調査結果²を踏まえて次の (1) (2) に注目した。

¹ 現行の国語辞典を対象に語釈の特徴などを分析した研究としては、大塚（2016）などがある。

² 大塚ほか（2016）では、辞書引き学習を取り入れている小学校の 5 年生 42 名に対し、[小学]の使用実態を見る調査を行った。その結果として、小学生が[小学]を用いても十分な理解が得られない語句や、検索成功率が低い語句の一端が明らかになった。調査に関する詳細な内容は、大塚（2018）を参照されたい。

- (1) 小学生が〔小学〕を用いても語の意味を十分に理解できない要因は何か。また、〔小学〕の検索成功率が低くなる要因は何か。
- (2) 小学校用教科書には「的」「性」「化」を含む派生語がどの程度見られるのか。また、その派生語は〔小学〕でどのように扱われているか。³

特に (2) に関して、大塚 (2018) では、小学校用教科書（国語科）から収集した「的」「性」「化」を含む派生語が、4 つの異なる〔小学〕において立項されているか否か調査した。その結果として、現行の〔小学〕においては派生語の立項基準が曖昧であることを指摘した。また、「A 的」の中には「的」の語釈と語基 A の語釈を融合させただけではその意味を適切に捉えられないものがあることが水野 (1987) や呉人・趙 (2008) によって指摘されていることを確認し、そのような「A 的」こそ立項して語釈を付ける必要があると主張した。

しかし、小学校用教科書に見られるような「A 的」は、どのようなものならば現行の〔小学〕における「的」の語釈からその意味を理解することが可能なのか、という点は議論が不十分であった。したがって、本稿ではその点を明らかにすることから始める。また、その結果を踏まえ、「的」の語釈として〔小学〕に記載すべき意味について検討し、具体的な提案を行う。

2.2 「的」に注目することの意義

ここで「的」を扱うのは、本稿が前述した筆者らの研究の流れを汲むものであることに因る。しかし、「的」に注目することの意義は、これまでの研究の不十分な部分を補うことだけではなく、高校生や大学生が「的」の意味や用法を十分に理解できていないという問題を解消する一助となる可能性があるというところにもある。この問題は竈島 (2017) によって示唆されたものである。

2.2.1 「的」の意味や用法の理解度に関する問題

竈島 (2017) は、「文章を書く際に使う語の正しい使用方法を生徒が理解しているか、また、躓きやすい語の傾向があるかどうかを探る」(竈島 2017: 32) ことを目的とし、高校生や大学生などを対象に調査を実施した⁴。調査の概要は、調査文に含まれ

³ (2) は大塚 (2018) でのみ扱った。

⁴ 高校生と大学生の他、日本語学習者 3 名と国語科教師 6 名にも調査を実施している。ただし、これらの調査対象者の調査結果は本稿の論旨と直接的な関わりを持つものでないため割愛する。

る論理語が適切に使用されているか否かを判定させるというものである。調査に用いた論理語は、児童言語研究会（1962）所収の「学習『論理語イ』一覧表」から選定されている⁵。このうち本稿が注目するのは、「A 的」の判定に関する調査を意図した調査文（表 2）とその調査結果（表 3）である。

表 2 箆島（2017）の調査文のうち「A 的」に注目させた文

調査文番号と調査文	適／不適 ⁶	訂正案
2 変化的気温のせいで体調を崩した。	不適	気温の変化の
4 二つの事項の 関係的 なつながりを見通すべきだ。	不適	関係を
7 このビルには 構造的 な欠陥がある。	適	—
12 部分的 に切り取って利用する。	適	—
14 存在的 にはあやふやである。	不適	存在は／存在が
18 一般的 には今回のケースのようにはいかない。	適	—
20 発生的 原因は二つの薬品だ。	不適	発生した
26 概念的 で具体性に欠けている解説だ。	適	—
32 彼と僕の意見は 同一的 ではない。	不適	同一ではない
34 目標的 に向かって進んでいく。	不適	目標（目的）に向かって

表 3 「A 的」に注目させた文の調査結果

「A 的」	適／不適	高校生 75 名の 許容数（%）	大学生 58 名の 許容数（%）	合計 133 名の 許容数（%）
12 部分的	適	73 (97.3%)	49 (84.5%)	122 (91.7%)
18 一般的	適	67 (89.3%)	53 (91.4%)	120 (90.2%)
7 構造的	適	54 (72.0%)	49 (84.5%)	103 (77.4%)
26 概念的	適	52 (69.3%)	49 (84.5%)	101 (75.9%)
14 存在的	不適	39 (52.0%)	31 (53.4%)	70 (52.6%)
32 同一的	不適	32 (42.7%)	17 (29.3%)	49 (36.8%)
20 発生的	不適	19 (25.3%)	19 (32.8%)	38 (28.6%)
34 目標的	不適	8 (10.7%)	13 (22.4%)	21 (15.8%)
2 変化的	不適	15 (20.0%)	5 (8.6%)	20 (15.0%)
4 関係的	不適	13 (17.3%)	5 (8.6%)	18 (13.5%)

表 3 を見ると、適切と考えられる「A 的」でも許容率が 90% に満たないものがあった

⁵ 箆島（2017: 39）は、『学習「論理語イ」一覧表』のうち 4 年生以上に配当されている漢語名詞を選び、そのうち中学校教科書ではそれほど使われていないが高等学校教科書では急に使用例・使用頻度が増えるものを計 18 語選んでいる。

⁶ 箆島（2017: 39）は、「適切であるか適切でないかの判定は、辞書の記述及び BCCWJ（筆者注：「現代日本語書き言葉均衡コーパス」）の出現数から判断する」と述べている。

り（「構造的」「概念的」）、反対に不適切と考えられる「A 的」であるにも関わらず許容率が 50%を越えるものがあつたり（「存在的」）することが分かる。また、そのような顕著な数値に至ったもの以外についても、高校生と大学生の「的」の意味や用法に関する理解に少なからず問題があることを示唆する結果になったと言える。

2.2.2 問題解消のために国語辞典が寄与できること

竈島（2017）の調査結果が示唆する問題、すなわち高校生と大学生が「的」の意味や用法を十分に理解できているとは必ずしも言えないという問題を解消する手立てはいくつかあるように思われる。筆者は、そのうちの 1 つとして国語辞典からアプローチすることも可能であると考え。そのアプローチについて、現段階では主に次の 2 つを想定している。

1 つ目は、高校生や大学生が使用することが考えられる〔一般〕において、特定の「A 的」が適切な表現であるか否かが把握できるような手段を講じることである⁷。これにより、「A 的」の適・不適を文章作成の場で判断することが可能となる。しかし、そのためには「的」に焦点を当てた精緻な実態調査の実施を通じて高校生や大学生の現状をより正確に把握することや、特に“書く”場面における国語辞典のより効果的な在り方を検討することなどが必要である。

2 つ目は、高校生や大学生になる前の小中学生が使用することが考えられる学習国語辞典において、「的」の語釈の質を充実させることである。その意図は、小中学生の段階から「的」の意味や用法を（少なくとも当該の学年において必要な水準で）十分に修得させることにある。

本稿が以下で行う〔小学〕における「的」の語釈に関する議論は、2 つ目のアプローチに関わるものである。なお、小学生の段階での「的」の修得レベルが、高校生や大学生になったときの「的」の使用にどれだけの影響を及ぼすかは別途検証する必要がある。しかし、少なくとも接尾辞の意味や用法は小学生の段階で理解を深めておくべきものであることが、『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）』及び『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 国語編』で示されている。(3) は『小学校学習指導要

⁷ 佐竹（2000）は、国語辞典の多くが用例の提示を重視していたとした上で (i) のように述べ、現行の国語辞典は用法の説明が不足しているという見方を示している。

(i) 近年、国語辞典は、ことばの意味を調べるためだけでなく、表現の可否をチェックするためにも使われる。そのようなときに問題になるのが用法に関する情報であり、それはもはや用例を示す形式だけでは不十分である。（佐竹 2000: 46）

領（平成 29 年告示）』に示されている小学校の第 5 学年及び第 6 学年における国語科の内容のひとつであり、(4) は (3) の下線部に関する『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 国語編』の記述である。

- (3) 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。
（『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）』p.35, 下線は筆者）
- (4) a. **語句の構成**については、お米の「お」のような接頭語、お父さんの「さん」のような接尾語のほかに、複合語、略語、慣用語、なども含んでい
る。語句の変化については、例えば、「花＋畑」で「ハナバタケ」という
ような音の変化、「帰る＋道」で「帰り道」というような語形の変化など
がある。
- b. **語彙を豊かにする**とは、自分の語彙を量と質の両面から充実させること
である。具体的には、意味を理解している語句の数を増やすだけでなく、
話や文章の中で使いこなせる語句を増やすとともに、語句と語句との関
係、語句の構成や変化などへの理解を通して、語句の意味や使い方に対
する認識を深め、語彙の質を高めることである。
（いずれも『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 国語編』p.120, 下線は筆者）

つまり、『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）』では、小学生が「的」の意味や用法を十分に修得できるようにするための検討に一定の意義があることが示唆されていると言える。本稿は、その点に関して国語辞典から寄与することを目指すものである。

3. [小学] における「的」の語釈の課題

3.1 [小学] と [一般] の調査

3.1.1 [小学] の語釈

初めに、現行の [小学] における「的」の語釈について、表 4 に挙げる 4 つの [小学] を用いて調査した。「的」に関するそれぞれの語釈をまとめると、表 5 のようになる。

表 4 調査に使用した〔小学〕の一覧

『書籍名』（出版社／発行年）	見出し語数	本稿での略称
『新レインボー小学国語辞典 改訂第四版 ワイド版』 （学研教育出版／2011 年）	37000 語	〔小学A〕
『チャレンジ小学国語辞典 第五版』 （ベネッセコーポレーション／2011 年）	33700 語	〔小学B〕
『例解学習国語辞典 第九版』 （小学館／2010 年）	34000 語	〔小学C〕
『三省堂例解小学国語辞典 第五版』 （三省堂／2011 年）	35000 語	〔小学D〕

表 5 〔小学〕における「的」の語釈⁸

国語辞典	「的」の語釈
〔小学A〕	《ものごとや人など、多くのことばのあとにつけて》①「…らしい」「…のような」などの意味をあらわす。例 動物的な強さ。②「…についての」「…にかかわる」などの意味をあらわす。例 科学的に説明する。③「…の状態にある」意味をあらわす。例 定期的なテスト。
〔小学B〕	（ほかのことばのあとにつけて）「…の性質を持つ」「…のような」などの意味を表す。例 劇的／文学的。
〔小学C〕	あることばにそえて、「…のような」「…の性質をもつ」の意味を表す。例 文化的。熟語 具体的・現実的・標的・楽天的。
〔小学D〕	〔あることばのあとにつけて〕…のような。…の性質の。熟語 劇的。科学的。文化的。

〔小学A〕は「①…。②…。③…。」というブランチを立てることで、「的」の意味が3つに分けられることを明示している。これに対し、〔小学B③D〕はブランチを立ててはいない。しかし、これらは『△△』『××』の意味を表すのように、異なる意味を持つ表現（△△「××」）を「的」の類義表現として提示しているため、「的」が多義であることを示している点では〔小学A〕と同じである。ただし、〔小学B③D〕が挙げる類義表現の数はいずれも2つであるため、これらは「的」の意味を2つに分ける立場をとっているものと推察される。ここで、便宜的に〔小学A〕が挙げる

⁸ 例えば、〔小学C〕には「的」の項目に (ii) のように記されている。
(ii) ①めあて。目標。例 目的。②あることばにそえて、「…のような」「…の性質をもつ」の意味を表す。例 文化的。熟語 的確・的中／具体的・現実的・標的・楽天的。
（〔小学C〕「的」）
このうち、接尾辞としての用法に対応する意味は②、「熟語」は「具体的・現実的・標的・楽天的」であると考えられる。本稿の考察対象は接尾辞としての「的」であるため、表中ではこれに対応する意味や語例のみを記載し、それ以外は省略してある。後出の表8と表16についても同様の方針を採るものとする。

①②③の意味を、それぞれ〈比喻〉〈関連〉〈状態〉と呼ぶと、[小学⑧⑨⑩]が挙げる2つの意味は、いずれも〈比喻〉〈状態〉に相当すると考えられる。つまり、調査対象とした各[小学]における「的」の語釈の関係は表6のようになる。ここから明らかになるのは、[小学]における「的」の語釈は〈比喻〉と〈状態〉を中心に構成される傾向にあるということである。

表6 [小学]における「的」の意味分類

分類	類義表現	例〔学習⑨〕 ⁹	記載辞典
〈比喻〉	…のような。(…らしい。) ¹⁰	動物的な強さ。	⑧⑨⑩
〈関連〉	…についての。…に関わる。	科学的に説明する。	⑧
〈状態〉	…の状態にある。…の性質を持つ。	定期的なテスト。	⑧⑨⑩

3.1.2 [一般]の語釈

次に、[小学]が記載していない意味について確認するため、[一般]における「的」の語釈について、表7に挙げる4つの[一般]を用いて調査した。「的」に関するそれぞれの語釈をまとめると、表8のようになる。

表7 調査に使用した[一般]の一覧

『書籍名』(出版社／発行年)	見出し語数	本稿での略称
『新明解国語辞典 第七版』(三省堂／2012年)	77500語	[一般①]
『岩波国語辞典 第七版』(岩波書店／2009年)	65000語	[一般①]
『明鏡国語辞典 第二版』(大修館書店／2010年)	70000語	[一般⑧]
『三省堂国語辞典 第七版』(三省堂／2014年)	82000語	[一般①]

⁹ 表6の「例」の欄に[小学⑧]に記載されている例のみを挙げたのは、[小学⑧⑨⑩]に記載されている例が、2つの意味のどちらに対応するものとして提示されているか判別が困難であったことに因る。大塚(2018)では、語釈と例の対応が明確でない場合、使用者が当該の語句の意味を十分に理解できなくなる可能性を指摘した。これを踏まえると、[小学⑧⑨⑩]における「的」の記述は、例の提示法に一定の問題があると言える。

¹⁰ [一般]によれば、「らしい」には比喻の用法の他に典型的な性質を備えている様子を表す用法もある。後出の[一般①]の「的」の語釈では、「のような」に言い換えられる場合と「らしい」に言い換えられる場合を分けてブランチを立てている(表8)ため、[一般]における「的」の意味分類(表9)では前者を〈比喻〉、後者を〈典型〉とした。しかし、[小学⑧]では1つのブランチ(⑧)の中に『…らしい』『…のような』などの意味をあらわすとあるため、これらに言い換えられる場合の「的」を(少なくとも明示的には)異なるものとは見ていないと考えられる。いずれの表現にも言い換えられるのは「的」が〈比喻〉の意味を持つ場合であるため、[小学]における「的」の意味分類(表6)ではこれらを一括して〈比喻〉とした。

表 8 「一般」における「的」の語釈

国語辞典	「的」の語釈
〔一般①〕	〔名詞や造語成分に添えて〕「そのものではないが、それに似た性質を持つ」「何かに関する」「何かの範囲内で行なうところの」「…としての」などの意を表わす。〔「の」の意で用いられる宋元の俗語を、後に英語の -tic の訳語として拡充したものという〕「哲学的・私的・病的・現実的・教育的」→【造語成分】 文法 一般に「漢語十的」の形で用いられるが、近年、「わたし的には賛成できない」「気持的には理解できる」などと、和語と結びつける例がまま見受けられるが、規範的な立場からは容認されていない。
〔一般②〕	⑤名詞に添えて「…のような」「…の性質を帯びた」「…の状態をなす」などの意を表す。また英語の -tic の音訳にも用いる。「私的・知的・美的・私的・端的・病的・劇的・人的・物的・精神的・現実的・科学的・宗教的・浪漫的」⑥人名・職業名などの一部に添えて親しみ・さげすみを表す。「取的（とりてき）・泥的（どろてき＝泥棒の俗称）」
〔一般③〕	〔接尾〕《多く抽象的な意味を表す漢語に付いて》①…に関する、…の傾向がある、…の状態の、などの意の形容動詞語幹を作る。「科学―・機械―・劇―・人口―・比較―」 語法 ① 派生形の連体用法には、「具体的解決法」「具体的な解決法」の二種があるが、前者がやや文章語的。古い言い方では「具体的的解決法」もある。② 近年、「～の上では」「～としては」などの意で、和語に付いて「気持ち的〔仕事の・味的〕」には、代名詞について「わたし的〔僕の〕」には、また形容動詞語幹に付いて「マニアック的・有効的」などと使われるが、標準的でない。③人を表す語に付いて、さげすみや親しみを表す。「取―」「泥―（＝泥棒）」
〔一般④〕	□〔形動ダをつくる〕①…についての。…の。「哲学(テウガク)―」②…のような。「家庭―」③…の状態にある。「合法―」④…らしい。「貴族―」⑤…にかなう。「論理―」⑥…の性質をもつ。「悲劇―」⑦〔俗〕「〔一に(は)〕」の形で「…として」「わたしーには納得(ナツク)できない・テレビーには、悪役がいたほうがいい」⑧〔俗〕「〔一な〕」の形で「…といったような。みたいな」「もうやめる、一なことを言っていた」□〔古風・俗〕人の名前などの下にそえて、したしみをあらわすことば。「権(ゴン)―〔＝権兵衛(ゴンベエ)〕・幽(ウ)―〔＝幽霊(ウレイ)〕」

ブランチを設けているのは〔一般②③④〕である。〔一般②〕と〔一般③〕はそれぞれ⑤と⑥、①と②に分けており、〔一般④〕は大きく□と□に分けてから前者を細分化している。したがって、〔一般②③④〕は「的」の意味を大きく 2 つに分けて捉えているという点で共通していると言える。さらに、それらはいずれも「人名・職業名などの一部に添えて親しみ・さげすみを表す」（〔一般②〕「的」⑥）といった用法（以下、〈呼称〉）とそれ以外を分けている。つまり、〔一般②〕の⑤と⑥、〔一般③〕の①と②、〔一般④〕の□と□は基本的に同水準の分類であると言える。具体的には、〔一般②〕の⑥、〔一般③〕の②、〔一般④〕の□は〈呼称〉、〔一般②〕の⑤、〔一般③〕の①、〔一般④〕の□は〈呼称〉以外の意味を記載しているのである。

一方、[一般①]はブランチを設けていないが、ここには〈呼称〉の意味が記載されていない。つまり、[一般①]は〈呼称〉以外の意味についてブランチを設けていないのであり、その点では[一般①K]と同じである。これに対し、[一般①L]は〈呼称〉以外の意味についてブランチを8つ(①～⑧)設定している。ここに[小学]の分類を適用すると、①が〈関連〉、②が〈比喩〉、③⑥が〈状態〉に当たる。一方、④⑤⑦⑧は[小学]に記載されていない意味である。これらの意味をそれぞれ〈典型〉〈適合〉〈観点〉〈引用〉と呼ぶと、調査した[一般]で挙げられている意味は概ね表9のように整理される。

表9 [一般]における「的」の意味分類

分類	類義表現など	例([一般①L])	記載辞典
〈比喩〉	…のような。似た性質を持つ。	家庭的。	①J ①
〈関連〉	…についての。…に関わる。	哲学的。	① K①
〈状態〉	…の状態にある／をなす／の。…の性質を持つ／を帯びた。	合法的。悲劇的。	J①K①
〈観点〉	…としての(の)。	わたし的には。テレビ的には。	① K①
〈典型〉	…らしい。	貴族的。	①
〈適合〉	…にかなう。	論理的。	①
〈引用〉	…といったような。	もうやめる的なこと。	①
〈呼称〉	人の名前などの下に添えて、親しみや蔑みを表す。	権的。幽的。	①K①

3.1.3 [小学]と[一般]の比較

以上、[小学]と[一般]における「的」の語釈を整理したが、計8つの国語辞典において「的」の語釈として記載された意味をまとめると表10のようになる。

表10 [小学]と[一般]における「的」の意味のまとめ

	〈比喩〉	〈関連〉	〈状態〉	〈観点〉	〈典型〉	〈適合〉	〈引用〉	〈呼称〉
[小学A]	有	有	有	無	無	無	無	無
[小学B]	有	無	有	無	無	無	無	無
[小学C]	有	無	有	無	無	無	無	無
[小学D]	有	無	有	無	無	無	無	無
[一般①]	有	有	無	有	無	無	無	無
[一般J]	有	無	有	無	無	無	無	有
[一般K]	無	有	有	有	無	無	無	有
[一般L]	有	有	有	有	有	有	有	有

(「有」は当該の意味が記載されていることを、「無」は記載されていないことを表す)

調査対象とした国語辞典のうち特に〔一般①〕を参考にすると、「的」には概ね 8 つの意味を認めることができる。〔小学〕における「的」の語釈はこのうち〈比喻〉と〈状態〉の 2 つの意味を中心に構成され、その他の〈観点〉や〈典型〉などの意味は記載されない傾向にあると言える。

3.2 小学校用教科書の調査

次に、小学校用教科書に見られる「A 的」を調査した。調査には (5) に示す 2 種類のデータを用いた。

- (5) a. 「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(以下、BCCWJ) に収録された教科書データ
- b. 2015 年度に使用された光村図書出版の小学校 4 年生用・5 年生用・6 年生用の国語科教科書(以下、光村国語)

(5a) を用いた調査は、コーパス検索アプリケーション「中納言」を用い、「特定目的・教科書」を対象に設定した上で実施した。BCCWJ には小学校・中学校・高校の教科書のテキストデータが含まれているが、このうち小学校の教科書を対象に「A 的」を検索した¹¹。その結果、延べ 33 語、異なり 20 語の「A 的」が収集された¹²¹³。一方、(5b) を用いた調査は、当該の教科書を光学文字認識ソフトウェア「読取革命 Ver.15」によって電子テキスト化し、「的」を含む語を検索するという方法で行った。その結果、延べ 107 語、異なり 36 語の「A 的」が収集された¹⁴。これらを併せると延べ 140 語、異なり 47 語となる(用例は 3.3 節の表 12 に示す)。

¹¹ 語彙素が「的」、かつ品詞の大分類が「接尾辞」であるものを短単位検索にかけた。

¹² 語の構成要素となっていない (iii) のような「的」が見られたが、これは本文中に示した用例数には含めていない。

(iii) 上の語に下の語が意味をそえて、様子や状態を表すもの 的 …「—のような」「—のような性質をもつ」という意味をそえる。(BCCWJ/国語/小 6)

¹³ BCCWJ の小学校用教科書データは 10 教科の教科書のテキストデータによって構成されているが、後出の国語科教科書のみのデータよりも「A 的」の抽出数が遥かに少ない。これは、BCCWJ の教科書データが特定の教科書から無作為にサンプリングしたものである(丸山・柏野 2014: 37) ことが影響していると思われる。

¹⁴ (5b) を用いた「的」の収集は大塚(2017, 2018)でも実施している。しかし、この調査では「社会的」が 1 例見落とされていたため、「的」の用例数は延べ 106 語、異なり 35 語と報告されている。本文の延べ 107 語、異なり 36 語という数値は、この「社会的」を加算したものである。

3.3 小学校用教科書の用例と〔小学〕の語釈の対応

3.1 節と 3.2 節の調査結果を踏まえ、小学校用教科書に見られる「A 的」の「的」について、〔小学〕に記載された〈比喻〉〈関連〉〈状態〉の意味で解釈することができるか否か検証し、対応する意味に基づいて「A 的」をいくつかのタイプに分けた。その際、(6) に当たるものは意味判定の対象から除外した。

- (6) a. 通常は単独での使用が不可能と考えられる語基を有する「A 的」（「合理的」「積極的」等）の「的」
- b. 文中で用いられていない「A 的」（「的」の使用例として列挙されている「A 的」）の「的」

「的」の意味を判定するということは、ある語に「的」が付くことによってその語が単独使用された場合からどのように意味を変えるか検討するということである。そのため、単独使用が不可能であるものを語基とする「A 的」は、「的」の意味を判定する対象として適さない¹⁵。また、「A 的」は同一の語であっても文脈によって意味が異なる場合がある¹⁶。そのため、文中で使用されたものでない「A 的」は、厳密にはその意味を判定することができない。以上の理由から (6) に当たる「的」を除いた結果、検証の対象となる用例は延べ 108 語、異なり 30 語となった。

検証は、前出の表 6 に挙げた〈比喻〉〈関連〉〈状態〉それぞれの類義表現とのパラフレーズを以って行った。なお、収集された「的」にはそのパラフレーズが可能なタイプや不可能なタイプの他、どちらとも言い難いものがあつたり、複数の意味に跨るものがあつたりする。またそれらの状況が複合した場合もあり、これらをすべて考慮するとタイプ分けが多岐に亘ることになる。本節の目的は小学校用教科書に見られる「A 的」の「的」について、〔小学〕に記載された〈比喻〉〈関連〉〈状態〉の意味で対応することができるか否かの検証であるが、差し当たって問題となるのは、特にそれらの意味で対応できないケースである。そのため、以下では「〈○○〉に対応する類義表現とはパラフレーズ不可能」という消極的な意味付けを以ってタイプ分けを行う

¹⁵ 遠藤（1984: 126）は、「可及的」「巨視的」などの語が「的」を除くと語として成立しないと述べた上で、「ここでは『的』はもはや接尾語といえないほどである」と指摘している。

¹⁶ 遠藤（1984: 132）は、「男性的欲望」の場合の「男性的」について、「欲望」の所有者が女性で場合は「男性に似ている」の意となり、その所有者が男性の場合は「男性としての」「男性そのものの」の意となると述べている。

こととした。その結果、小学校用教科書から収集した「A 的」の「的」は表 11 に示すような 4 つのタイプに分けられた。

表 11 小学校用教科書に見られる「A 的」の「的」の意味タイプ

タイプ	〈比喩〉	〈関連〉	〈状態〉
〈a〉	×		×
〈b〉	×	×	
〈c〉	×		
〈d〉	×	×	×

（「×」は当該の意味で解釈できないことを表す）

表 11 のタイプ 〈a〉～〈d〉に当たる「的」から成る「A 的」は表 12、各タイプに当たる「的」の具体的な使用例は (7)～(10) の通りである。

表 12 小学校用教科書に見られる「A 的」とタイプ〈a〉～〈d〉の対応

タイプ	小学校用教科書に見られる「A 的」（用例数）					
〈a〉	国際的 (4) 物質的 (1)	科学的 (2)	栄養的 (1)	社会的 (1)	生理的 (1)	世界的 (1)
〈b〉	具体的 (20) 突発的 (3) 衛生的 (1)	計画的 (6) 自動的 (2) 慣用的 (1)	発展的 (6) 特徴的 (2) 献身的 (1)	人工的 (4) 友好的 (2) 代表的 (1)	総合的 (4) 理想的 (2) 本格的 (1)	直接的 (4) 意欲的 (1)
〈c〉	伝統的 (3) 基本的 (1)					
〈d〉	効果的 (23) 国際的 (1)	歴史的 (2) 精神的 (1)	運命的 (1)	科学的 (1)	基本的 (1)	効率的 (1) 世界的 (1)

（下線を引いた「A 的」は文脈によって異なるパターンに解釈されたものであることを表す）

(7) タイプ〈a〉

- レタスやプチトマトなどを盛りつけると、いづれも栄養的なバランスもよくなるよ。
(BCCWJ／技術家庭／小 6)
- その一つは、物質的な援助だけでなく、防災事業と住民の生活援助を合わせて行ったことである。
(光村国語／小 5)

(8) タイプ〈b〉

- わたくしたちは、遠い宇宙のかなたに住むピロル星人です。地球の方々と友好的な関係を築きたいと思っています。
(BCCWJ／国語／小 5)
- 無人で自動的に気象観測を行う。
(光村国語／小 5)

(9) タイプ〈c〉

- a. 「地いきの材料やわざを生かして、生活にみつ着した伝とう的な工芸品がたくさんあるね。」 (BCCWJ/社会/小4)
- b. 私は、自分が何年たっても基本的に変わっていないと、よく自分に言い聞かせます。 (光村国語/小6)

(10) タイプ〈d〉

- a. そこで、農家は機械を使って広い耕地をたがやし、効率的な生産を行うように努力しています。 (BCCWJ/社会/小5)
- b. そんな思いで過ごしていたある日、私に運命的な救いの手が差しのべられました。 (光村国語/小6)

3.4 考察

以上、[小学]における「的」の語釈は〈比喻〉と〈状態〉を中心に構成される傾向にありながら、本稿が調査対象とした小学校用教科書に見られた「的」は〈関連〉や〈状態〉の意味にとれるものに限られ、〈比喻〉の意味で用いられるものは見られないことが明らかとなった。これは、[小学]で重視される意味と小学校用教科書に見られる「的」の意味の傾向が一致していないことを意味している。

この点に関して考察すべき問題は主に2点ある。1点目は〈比喻〉と〈関連〉についてである。前述の通り、本稿が実施した調査では、小学校用教科書において〈比喻〉をとれる「的」は1例も確認されなかった。「的」を〈比喻〉の意味で用いるのは特殊な用法ではないと考えられるため、その記載自体を積極的に否定するわけではない。しかし、そうした〈比喻〉が4つの[小学]すべてに記載され、小学校用教科書で一定程度の使用が確認される〈関連〉の意味が4つの[小学]のうち1つにしか記載されていないという状態は、少なくとも小学生が学習の中で目にすることが容易に想定される「的」の使用実態を十分に反映しているとは言い難く、改善の余地があると考ええる。

2点目はタイプ〈d〉についてである。ここに属する「A的」((10))は「的」の語釈から意味を捉えることができない。国語辞典には派生語が直接立項される場合もあるため、現行の[小学]でそのような処置がとられていれば、それを以って意味を理解することが可能である。しかし、タイプ〈d〉に属する9語(異なり)のうち、「運命的」「基本的」「効率的」「精神的」の4語は[小学A③C④D]のいずれか、あるいはそのすべてで立項されていない。つまり、現行の[小学]では「基本的」「効率的」

「精神的」「運命的」は〔小学〕を用いてもその意味を理解することができない可能性があるということである。また、立項されていてもその記述が十分でないものもある。例えば「基本的」は〔小学④⑤⑥〕において立項されており、「ものごとのもとになるようす」（〔小学⑥〕）といったような語釈が付けられるが、(11) のような「基本的」は「原則として」「通常」といった意味に近い¹⁷。

(11) 【話し言葉】 音声で表す言葉。基本的に、その場限りで消えてしまう。

（光村国語／小6）

意味を網羅的に記載することを重視していないと考えられる〔小学〕においては、必然的に「的」の語釈に収まらない「A 的」の存在を許すことになる。しかし、小学校用教科書に見られるような「A 的」については、その意味を適切に捉えられる手段を講じる必要があると考える。

4. 妥当な語釈に関する検討

4.1 検討の方針

前節では、主に〔小学〕における「的」の語釈、及び小学校用教科書に見られる「A 的」を調査した。その結果として、現行の〔小学〕における「的」の語釈が、その意味の選別にに関して、少なくとも小学生が学習過程で目にすることが容易に想定される「的」の使用傾向を十分に反映しているとは言えないことを明らかにした。これを踏まえ、本節では〔小学〕における「的」の語釈としてどのような意味を記載するのが妥当であるか検討する。

方針として、まず意味の候補は〈比喻〉〈関連〉〈状態〉〈観点〉〈典型〉〈適合〉〈引用〉〈呼称〉の8つとする。その中で、小学校用教科書に見られる「A 的」（表12）の「的」に対応するものは記載すべきと考える。また、それ以外の意味についても、中学校用教科書に見られる「A 的」の「的」に一定数対応するものは記載すべきと考える。これは、〔小学〕の学習用という点に鑑み、小学生が今後理解していくことが必要となる意味も記載することに一定の意義があると判断したことによる。

¹⁷ 前出の〔一般④〕では、「基本的」について「④基本となるようす。」「②〔一に〕の形で」原則として。だいたい。」という2つのブランチを立てている。

4.2 中学校用教科書の用例と 8 つの意味の対応

前述の方針に従い、中学校用教科書に見られる「A 的」を、BCCWJ に収録された中学校用教科書のデータから収集した。その結果、延べ 219 語、異なり 82 語の「A 的」が収集された。同じく BCCWJ に収録された小学校用教科書のデータから収集した「A 的」は延べ 33 語、異なり 20 語であったため、中学校用教科書は小学校用教科書から延べ語数、異なり語数とも大幅に増加することが分かる。次に、この中学校用教科書に見られる「A 的」の「的」について、前出の 8 つの意味で解釈することができるか否か検証し、対応する意味に基づいて「A 的」をタイプ分けした。なお、3.3 節と同様に、通常は単独での使用が不可能と考えられる語基を有する「A 的」の「的」と文中で用いられていない「A 的」の「的」は除いたため ((6))、検証の対象となる用例は延べ 201 語、異なり 75 語となった。また、検証方法も 3.3 節と同様に「〈○○〉」に対応する類義表現とはパラフレーズ不可能」という消極的な意味付けを採用した。その結果、中学校用教科書から収集した「A 的」の「的」は表 13 に示すような 14 のタイプに分けられた。

表 13 中学校用教科書に見られる「A 的」の「的」の意味タイプ

タイプ	〈比喩〉	〈関連〉	〈状態〉	〈観点〉	〈典型〉	〈適合〉	〈引用〉	〈呼称〉
〈e〉		×	×	×	×	×	×	×
〈f〉	×		×	×	×	×	×	×
〈g〉	×	×		×	×	×	×	×
〈h〉	×	×	×		×	×	×	×
〈i〉	×	×	×	×		×	×	×
〈j〉	×	×	×	×	×		×	×
〈k〉		×		×	×	×	×	×
〈l〉	×			×	×	×	×	×
〈m〉	×		×		×	×	×	×
〈n〉	×		×		×		×	×
〈o〉	×	×			×	×	×	×
〈p〉	×	×		×		×	×	×
〈q〉	×	×		×	×		×	×
〈r〉	×	×	×	×	×	×	×	×

(「×」は当該の意味で解釈できないことを表す)

表 13 のタイプ〈e〉～〈r〉に当たる「的」から成る「A 的」は表 14 のようにまとめられる。

表 14 中学校用教科書に見られる「A 的」とタイプ〈e〉～〈r〉の対応

タイプ	中学校用教科書に見られる「A 的」（用例数）					
〈e〉	人間的 (1)					
〈f〉	国民的 (1) 造型的 (1)					
〈g〉	代表的 (5)	立体的 (5)	自動的 (4)	具体的 (3)	魅力的 (3)	一般的 (2)
	感動的 (2)	人工的 (2)	抽象的 (2)	統一的 (2)	特徴的 (2)	封建的 (2)
	意識的 (1)	客観的 (1)	強制的 (1)	継続的 (1)	恒久的 (1)	合法的 (1)
	実用的 (1)	総合的 (1)	対照的 (1)	<u>多面的</u> (1)	徹底的 (1)	統制的 (1)
	独創的 (1)	武断的 (1)	平均的 (1)	補助的 (1)	補足的 (1)	連続的 (1)
	露悪的 (1)					
〈h〉	地域的 (30)	全国的 (6)	<u>世界的</u> (3)	<u>国際的</u> (2)	<u>多面的</u> (2)	文法的 (2)
	<u>社会的</u> (1)	全体的 (1)	地理的 (1)	文化的 (1)	<u>歴史的</u> (1)	
〈i〉	近代的 (3)					
〈j〉	現実的 (1) 理論的 (1)					
〈k〉	悲劇的 (1) 平面的 (1) 躍動的 (1)					
〈l〉	伝統的 (12)					
〈m〉	栄養的 (4)	経済的 (3)	軍事的 (2)	視覚的 (2)	技術的 (1)	<u>歴史的</u> (1)
〈n〉	<u>社会的</u> (3)	心理的 (2)	政治的 (2)	身体的 (1)		
〈o〉	ボランティア的 (1)					
〈p〉	中心的 (2) 中心地的 (1)					
〈q〉	<u>基本的</u> (13) 計画的 (8) 本格的 (3) 規則的 (1)					
〈r〉	<u>歴史的</u> (4)	効果的 (3)	事務的 (3)	<u>世界的</u> (3)	個性的 (2)	日常的 (2)
	比較的 (2)	幾何学的 (1)	<u>基本的</u> (1)	健康的 (1)	<u>国際的</u> (1)	知性的 (1)

（下線を引いた「A 的」は文脈によって異なるパターンに解釈されたものであることを表す）

4.3 提案

以上の調査を踏まえ、[小学]における「的」の語釈として記載すべき意味を本稿の方針に則って提案する。

前述のように、本稿ではまず小学校用教科書に見られる「A 的」（表 12）の「的」に対応する意味は記載すべきと考える。これは〈関連〉と〈状態〉に当たるが、この 2 つの意味は、小学校用教科書だけでなく中学校用教科書に見られる「A 的」（表 14）

の「的」についても、その多くに対応することが可能である。中学校用教科書に見られる「A 的」の「的」の意味は、8 つの意味すべてで解釈できないタイプ〈r〉を除くと〈e〉～〈q〉の13のタイプ（延べ177語）に分けられるが（表13）、このうち9つのタイプが〈関連〉あるいは〈状態〉で対応可能となっているのである（延べ121語）。

また、本稿では小学校用教科書に見られる「A 的」の「的」に対応する意味以外であっても、中学校用教科書に見られる「A 的」の「的」に一定数対応するものは記載すべきと考える。これに当たるのはタイプ〈e〉〈h〉〈i〉〈j〉であるが、このうち〈観点〉で対応可能なタイプ〈h〉には延べ50語が属している。この〈観点〉と先の〈関連〉〈状態〉を併せると、タイプ〈r〉を除いた13のタイプ延べ177語のうち10のタイプ延べ171語（約96.6%）の「A 的」の「的」に対応可能となる。なお、小学校用教科書に見られる「A 的」の「的」のうち、現行の〔小学〕の語釈で対応できないタイプ〈d〉には〈観点〉の意味で対応できるものがある（「歴史的」「国際的」「世界的」）。つまり、〔小学〕の語釈として〈観点〉を記載することで、小学校用教科書に見られる「A 的」についても、「的」の語釈で対応できるものをより増やすことができるのである。

以上を踏まえ、本稿では、〔小学〕における「的」の語釈は〈関連〉〈状態〉〈観点〉を中心に構成すべきと結論付ける。

5. おわりに

本稿では、〔小学〕における「的」の語釈や小学校用教科書に見られる「的」の意味を調査し、現行の〔小学〕の語釈が、少なくとも小学生が学習過程で目にすることが容易に想定される「的」の使用傾向を十分に反映したものになっているとは言えないことを明らかにした。その上で、〔小学〕における「的」の語釈は小中学校用教科書に見られる「的」に対応できるような意味を記載するという方針を採る場合、その語釈は〈関連〉〈状態〉〈観点〉を中心に構成するのが妥当という考えを示した。

しかし、本稿では現行の〔小学〕における「的」の語釈の問題点とその解消の方向性を具体的に示したが、特に後者についてはそれを実証的に明らかにする必要がある。また、ここでは調査対象を小中学校用教科書に限定したが、小学生が生活の中で触れる「A 的」は教科書の中に見られるものばかりではない。今後さらに調査対象の範囲を広げることで、小学生が修得すべき「的」の意味がどのくらいの範囲に及ぶものであるのかが明らかになると考えられる。

ところで、本論では扱うことができなかったが、[小学]と同様に学習用に編纂されたもので中学生向けの国語辞典がある（以下、[中学]）。[中学]は用途こそ[小学]と同じであるが、対象としている使用者が異なるため、語釈の傾向に違いが見られる。例えば表 15 に挙げる 4 つの [中学] を調査すると、「的」の語釈はそれぞれ表 16 のようになり、それらは表 17 のように整理される。

表 15 調査に使用した [中学] の一覧

『書籍名』（出版社／発行年）	見出し語数	本稿での略称
『旺文社標準国語辞典 第七版』（旺文社／2011 年）	47000 語	[中学E]
『ベネッセ新修国語辞典 第二版』（ベネッセコーポレーション／2012 年）	47000 語	[中学F]
『学研現代標準国語辞典 改訂第三版』（学研プラス／2016 年）	50000 語	[中学G]
『例解新国語辞典 第九版』（三省堂／2016 年）	59000 語	[中学H]

表 16 [中学] における「的」の語釈

国語辞典	「的」の語釈
[中学E]	名詞の下につけて「…のような」「…らしい」「…としての」などの意を表す。 例 科学的・形式的・現実的・公的・史的・私的・詩的・組織的・知的・美的・物的・理想的
[中学F]	《多く名詞について形容動詞の語幹をつくる》①「そういう状態にある」の意味をあらわす。「決定―」②「そのような性質の」の意味をあらわす。「動物―」「人間―」③ある観点から見ている、の意味をあらわす。「科学―」「教育―」
[中学G]	①…のような性質の。…らしい。例 動物的な勘。②…の状態にある。例 合法的な活動。③…についての。…に関する。例 社会的な活動。用選 名詞について、形容動詞の語幹をつくる。
[中学H]	「～のような」「～に関する」という意味を表わす。用例 科学的根拠がない。自己中心的な考え方。健康的にやせる。

表 17 [中学] における「的」の意味分類

分類	類義表現	例（[中学F][G]）	記載辞典
〈比喻〉	…のような（性質の）。…に似ている。（…らしい。…の傾向がある。）	動物的（な勘）。人間的。	EFGH
〈関連〉	…についての。…に関する。	社会的な活動。	G H
〈状態〉	…の状態にある。（…の傾向がある。）	決定的。合法的な活動。	F G
〈観点〉	…として（の）。	科学的。教育的。	E F

表 16 と表 17 について興味深いのは、一部の [中学] の語釈に [小学] には記載されていない〈観点〉の記載が確認できる点、並びに一部の [一般] に記載されていた〈典型〉〈適合〉〈引用〉〈呼称〉が記載されていない点である。前述の調査の通り、中学校用教科書に見られる「A 的」の「的」は、そのほとんどが〈関連〉〈状態〉〈観点〉で対応することが可能なものであった（タイプ〈x〉を除く）。つまり、[中学] では中学校用教科書に見られる「的」の使用傾向がある程度反映されていると言える。ただし、これら 3 つの意味をすべて記載するものは [中学⑥⑦⑧⑨] の中では確認できなかったことを踏まえれば、[中学] の語釈も必ずしも十分とは言えない。このことは、今後学習国語辞典の課題とその解決の方向性を議論していく際、[小学] だけでなく [中学] もその考察の対象とすべきであることを示唆していると言える。

参考文献

- 遠藤織枝 (1984) 「接尾語「的」の意味と用法」『日本語教育』53, pp.125-138.
- 王娟 (2016) 「辞書から見た接尾辞『的』の変遷 (Ⅲ) —「的」の記述に関する考察—」『平安女学院大学研究年報』16, pp.43-54, 平安女学院大学.
- 大塚貴史 (2017) 「小学校国語教科書と学習国語辞典における派生語」『全国大学国語教育学会国語科教育研究 第 132 回岩手大会研究発表要旨集』pp.37-40.
- 大塚貴史 (2018) 「学習国語辞典の課題に関する試論」『筑波日本語研究』22, pp.56-74.
- 大塚貴史・竈島千裕・長田友紀・矢澤真人 (2016) 「小学生の学習国語辞典使用実態調査」科研費基盤 (B) 作文支援プロジェクト 2015 年度第 2 回全体会議・日本語文法教育学研究第 20 回発表会合同研究発表会 発表資料.
- 大塚みさ (2016) 「国語辞書における連語の扱い—一言語発信力の観点から—」『実践女子大学短期大学部紀要』37, pp.79-87, 実践女子大学.
- 竈島千裕 (2017) 「高等学校における語彙指導—四領域の「書く」場面を中心に—」平成 28 年度筑波大学大学院教育研究科修士論文.
- 倉島節尚 (2000) 「語数をめぐるせめぎ合い」『言語』29(5), pp.64-69, 大修館書店.
- 呉人恵・趙虹 (2008) 「日本語の接尾辞「一的」の意味論および統語論的一考察」『富山大学人文学部紀要』49, pp.19-43, 富山大学.
- 佐竹秀雄 (2000) 「使いやすさをめぐる闘い—国語辞書篇—」『言語』29(5), pp.42-47, 大修館書店.

児童言語研究会（1962）『言語要素指導（国語教育の体系化Ⅰ）』明治図書。

橋本修・安部朋世・関口雄基（2017）「学習用国語辞典の語釈の難易度をめぐって」『全国大学国語教育学会 国語科教育研究 第133回福山大会研究発表要旨集』pp.89-92.

藤居信雄（1957）「的ということば」『言語生活』71, pp.71-76, 筑摩書房。

藤居信雄（1961）「的の意味」『言語生活』119, pp.80-83, 筑摩書房。

丸山岳彦・柏野和佳子（2014）「第2章 サンプリング」前川喜久雄監修・山崎誠編『書き言葉コースパス ―設計と構築―（講座日本語コースパス2）』pp.22-44, 朝倉書店。

水野義道（1987）「漢語系接辞の機能」『日本語学』6(2), pp.60-69, 明治書院。

矢澤真人・長田友紀・籠島千裕・大塚貴史（2016）「小学生の国語辞典の使用実態について」『全国大学国語教育学会 国語科教育研究 第131回東京大会研究発表要旨集』pp.393-396.

山下喜代（1999）「字音接尾辞「的」について」森田良行教授古稀記念論文集刊行会編『日本語研究と日本語教育』pp.24-38, 明治書院。

参考資料

『三省堂例解学習国語辞典 第五版』（田近洵一編, 三省堂, 2013年）

『新レインボー小学国語辞典 改訂第四版』（金田一春彦・金田一秀穂監修, 学研教育出版, 2011年）

『チャレンジ小学国語辞典 第五版』（湊吉正監修, ベネッセコーポレーション, 2011年）

『例解学習国語辞典 第九版』（金田一京助編, 小学館, 2010年）

『旺文社標準国語辞典 第七版』（古田東朔監修, 旺文社, 2011年）

『ベネッセ新修国語辞典 第二版』（中道真木男編, ベネッセコーポレーション, 2012年）

『学研現代標準国語辞典 改訂第三版』（林史典・林義雄・金子守編, 学研プラス, 2016年）

『例解新国語辞典 第九版』（林四郎監修／篠崎晃一・相澤正夫・大島資生編, 三省堂, 2016年）

『明鏡国語辞典 第二版』（北原保雄編, 大修館書店, 2010年）

『岩波国語辞典 第七版』（西尾実・岩淵悦太郎・水谷静夫編, 岩波書店, 2009年）

『三省堂国語辞典 第七版』（見坊豪紀・市川孝・飛田良文・山崎誠・飯間浩明・塩田雄大編, 三省堂, 2014年）

『新明解国語辞典 第七版』（山田忠雄・柴田武・酒井憲二・倉持保男・山田明雄・上野善道・井島正博・笹原宏之編, 三省堂, 2012年）

『小学校学習指導要領（平成29年告示）』（文部科学省, 2018年）

『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』（文部科学省, 2018年）

『国語4上かがやき』『国語4下はばたき』『国語5銀河』『国語6創造』（甲斐睦朗ほか, 光村図書出版, 2016年）

「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(国立国語研究所)

付記

本稿は JSPS 科研費 JP26285196 の助成を受けている。

おおつか たかし／人文社会科学研究科
(2018 年 10 月 15 日受理)